

施工から設計と管理探る

近畿地方整備局が勉強会組織として、情報化施工技術推進・CIM検討会を発足したのは2012年5月。これまでに10回の会合を持ち、CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）導入の可能性を整理してきた。企画部技術管理課の藤井節生課長補佐はこの間の議論を経て、

CIMの道筋 変わる発注者意識 ⑦

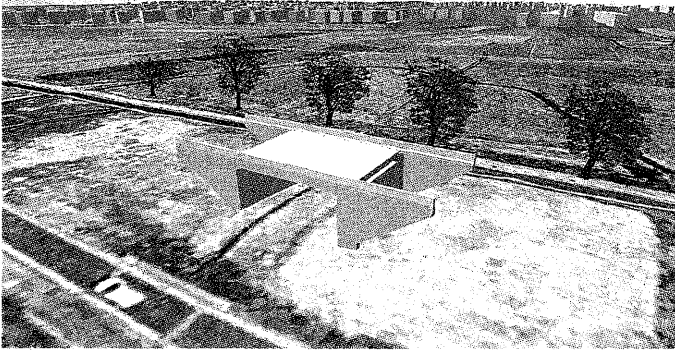
近畿地方整備局

試行の方向性が明確に定まり、目次で各分野の工事案件から試行希望が共有できていると強調する。望を積極的に呼び掛けた。藤井氏は「施工段階を試行対象の軸に設定することにより、設計と維持管理を両にらみできる」と、その狙いを明かす。

希望工事では、設計に必要な3次元モデルデータのあり方を検証し、それを今後の設計にフィードバックする。施工データの抽出作業では維持管理を前提にどのような情報が有効であるかを導き出す。企画部の牟禮輝久技術調整管理官は「今後は既存構造物への対応についても、CIM試行の残された宿題として取り組む」と意欲的だ。

CIMの可能性を探るには、調査や設計の段階を試行対象に位置付け、順を追ってデータを施工や維持管理に引き継ぐ流れが検証に効果的であるものの、川上段階ではタイミングの問題もあり、複数の最適案件を抽出できない。その

出先事務所は橋梁周辺部の盛り土エリアも試行対象に位置付ける



整備局では既存構造物の現況を3次元データ化する点でも、CIMがストック対策の有効な手段になる可能性は高いとの認識を持っている。

12年度に試行業務として位置付

けた国道161号安曇川地区橋梁では、担当する滋賀国道事務所が自主的に橋梁周辺部の盛り土エリアについても試行対象に位置付け、橋梁部と周辺部を1つのパッケージとして検証する予定だ。加藤義紀機械施工管理官は「ここでは施工段階に情報化施工へのデータ連携にも取り込む。施工情報の延長線上には維持管理に必要な属性情報が数多く含まれている」と確信している。

希望工事の天ヶ瀬ダム再開発トンネル放流設備工事3件は、いずれも大手ゼネコンが施工を担当し、最先端のCIMが展開される見通し。近接する3現場はそれぞれで自主的に導入を試みるが、このように複数工区の集合体となる土木構造物では各工区の3次元モデルを統合することで大きな効果を得られる。牟禮氏は「施工の検証に統合モデルは効果を発揮するだろうが、維持管理に統合化の効果を得られるか否かは今後の議論で導き出したい」と考えている。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊勢 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬ 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |